

令和元年度文化振興審議会における委員意見論点整理表

項目	委員名	意見の概要 () は指摘のあった計画の箇所	意見に関する県の考え等
県立美術館、県立博物館の企画展	佐々木委員	若冲、フェルメールも良いが、関根正二や徳一の展覧会は県立美術館、県立博物館ならではの素晴らしい展覧会であり、入館者の確保も含め、バランスをとって計画を練ってほしい。 (計画IV-2-(1))	これまで独自の企画展と大規模展のバランスを踏まえ開催してきたところであり、委員の意見を踏まえて、引き続き計画・実施していきたい。
若手芸術家支援	佐々木委員	「新進若手芸術家への支援」とあるわけだから、宇都宮市の事例(数年に1回、若手芸術家の支援として、賞金200万円、3年間に1回美術館や文化センターで講演、展覧会開催の権利を与える)があることを念頭において、考えていただきたい。(計画IV-1-(2))	芸術を職とするための若手芸術家支援については、先進事例を収集し、中長期的に検討することとしたい。
総合計画	田村委員	「新たな福島県総合計画の骨子(イメージ)」の誇りの項目の記載に「新たな魅力を創る」とあるが、「新たに魅力を見出す」ではないか。(R2.2.4開催第3回福島県総合計画審議会配布資料から)	審議が進む中で、「新たな魅力を創る」という記載は削除され、「福島の誇り、誇れるものを大切に育み」と変更されています。
	新城委員	現行の総合計画は当初に比べて現状こうなった。文化振興計画もこう計画してはどうかと提案してもらおうと、我々も考えやすい。	御審議いただけるよう、総合計画を踏まえ、計画案を丁寧に説明してまいりたい。
	岡部委員	観光、福祉といった切り口で計画を作っていく機会を設けるのか。また総合計画の各部門計画との連動で考えていくのがよいのか。	可能な範囲で、各計画の視点をお示しできるような工夫を考えていきたい。

項目	委員名	意見の概要 () は指摘のあった計画の箇所	意見に関する県の考え等
事業等の周知	岩崎委員	県の施策を知らない、関心を持っていない団体がまだかなりあるので知ってもらう手立てが必要。(計画IV-5-(1))	県の広報媒体を始め、市町村、関係団体と連携を図りながら、事業内容の周知に努めてまいりたい。
		市町村の担当部署によって、県の施策に関する意識、関心の温度差が大きいので埋めていくことが大事。(計画IV-5-(1))	市町村向けの会議を主催している関係各課と連携を図りながら、市町村に事業の周知を図ってまいりたい。
	冠木委員	県には、無形を含む文化財、施設などたくさんの宝があるので、県民に告知すべき。(計画IV-5-(2))	市町村、関係団体と連携を図りながら、地域の宝の周知に努めてまいりたい。
文化の定義等	岡部委員	文化の定義が定まっていないと計画全体が揺らいでしまう。文化とは、日々の積み重ね、人が営んでいく生活の中で積み重ねられてきたものの総体だと思う。(計画I)	計画案策定する際に、文化の定義や文言の意味を丁寧に考えながら、記載を考えてまいりたい。
	片野会長	健康と文化、生活と文化などお互いに入り込んで形成されている部分があるが、何らかの整理が必要。(計画IV-6)	
	田村委員	主な指標のところ、「学術・文化・芸術・スポーツ」と横並びになっているが、文化をどのようにとらえているのか。(計画IV-8)	
	田村委員	「文化イベントの開催や優れた文化の紹介」とあるが、文化に優劣はない。優れた文化活動とか、優れた作品とかであれば良いが。(計画IV-2-(1))	
	田村委員	「優れた文化芸術に親しむ」とあるが、優れたとはどういうことを指すのか。(計画IV-2-(1))	
	田村委員	「創造的な復興」が示す具体的な概念はどのようなものか。(計画I)	

項目	委員名	意見の概要 ()は指摘のあった計画の箇所	意見に関する県の考え等
指標	岡部委員	指標にあるNPO法人数が増えるのは良いが、それだけでなく、団体の充実度合いも大事である。(計画IV-6)	NPO強化による復興創生事業を通して、NPO法人の活動支援に努めてまいりたい。
	井波委員	NPOは数を増やせば良いものではなく、継続することが大事。(計画IV-6)	
	佐々木委員	数値目標を立てるのは難しく、「モニタリングシート」という言葉も使えるのではないかと話したが、第三者にもわかりやすくということ目標数値を作るときは根拠を明示できるようにしてほしい。	現在の数値目標について改廃も含めて見直ししていきたい。
	岩崎委員	質を測る指標はないか。効果を測る指標も工夫して考えていくべき。	
県展	嶋原委員	次期計画において、福島県総合美術展覧会の中に、写真部門を入れてほしい。(計画IV-1-(1))	県展のあり方について、部門も含めて中長期的に検討を進めてまいりたい。
	井波委員	学生は、年齢で分けるのではなく、青少年という括りにしてほしい。(計画IV-1-(1))	

項目	委員名	意見の概要 () は指摘のあった計画の箇所	意見に関する県の考え等
交流	冠木委員	他の地域と競い合ったり交流したりして新たな文化が生まれる。国内だけでなく国際交流が入ったことは大変意義がある。教育旅行、修学旅行といった交流の場をもっと増やしてほしい。	市町村、関係団体と連携を図りながら、教育旅行、修学旅行など交流の場について検討してまいりたい。
	井波委員	国際交流を具体的にどのような形で行うのか。	計画案を策定していく中で、検討してまいりたい。
	冠木委員	観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策との連携とは具体的にどのようなことを想定しているのか。	
施設の充実	冠木委員	福島にある文化財をよく観ることができる施設づくりや県立美術館、県立博物館の施設拡充、ソフト事業の多様化をお願いしたい。 (計画IV-4-(1), (2))	関係課、市町村、関係団体と連携を図りながら、発表できる場や施設の魅力アップについて検討していきたい。
	田村委員	県立美術館は一般の方が発表する場として活用できないが、発表の場というのも気になっている。(計画IV-1-(1))	